

# 遠隔医療の先進モデルK-MIX、全国区へ。

次世代レベルの安心・安全社会の基盤になる、全国初・香川発の遠隔医療ネットワーク。

## 教科書にも取り上げられる、医療崩壊を救う画期的な仕組み。

ちょっとした熱やケガでも中核病院に足を運ぶ。そうした患者意識の“かかりつけ医”離れが、勤務医不足、診療所の経営難など、医療崩壊の一因になっています。もし、行きつけの診療所で診てもらい、専門医の診断が必要なら、その場から画像を含めた検査データを送信して遠隔でも満足のいく医療を受けられる医療連携の仕組みがあれば、医師不足を補い、地域ごとの医療格差をなくすとともに、医療費を有効に使うことにもつながります。

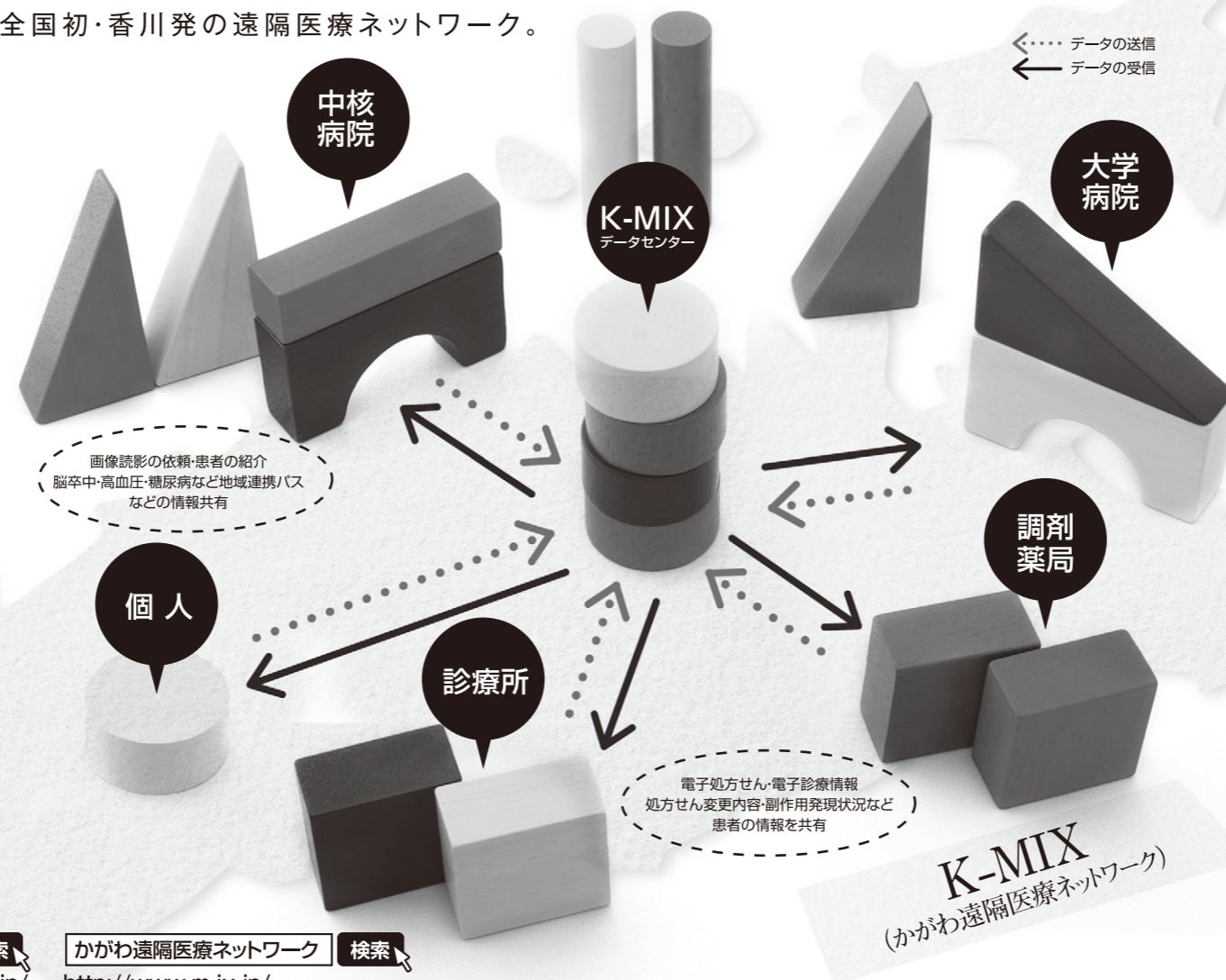
そうした趣旨から、周産期電子カルテネットワークやモバイル胎児心拍モニターによる在宅妊婦管理システムの開発など、医療ITで全国に先駆けている香川大学医学部が中心となり、地域の力を結集させて2004年6月にスタートさせたのが、かがわ遠隔医療ネットワーク「K-MIX」です。医療崩壊を救うこの画期的な仕組みは、2011年度からの小学校教科書にも掲載されるなど、これからの地域医療を支える社会基盤として注目されています。



送られた画像を見る  
香川大学医学部附属病院の医師



生涯健康カルテや個人医療記録を自宅で確認



## 行政・医師会・大学の三者が一体となって、地域ぐるみのチーム医療を。

「K-MIX」は香川大学医学部の呼びかけのもと、県と医師会の三者が一体となって実績を重ねてきた全国初の全県の取り組みで、現在加盟している医療機関は104施設。瀬戸内海の離島を含む地域の診療所から一般病院、中核病院、香川大学医学部附属病院など香川県全域を網羅しています。

これまでの活用は、CTやMR画像の読影依頼が中心でしたが、「K-MIX」の機能は年々強化され、2009年に脳卒中地域連携クリティカルパスが、2010年には、薬の服用効果や副作用など患者の声の医療現場にフィードバックされる新たな仕組みとして、大学病院と地域の調剤薬局を双方向に結ぶ電子処方せんのネットワークがスタート。治療計画の情報共有を図る糖尿病地域連携クリティカルパスも近々稼働予定。ネットワーク連携で医療や介護の現場力を高める「K-MIX」を基盤に、予防から急性期、慢性期医療や介護に及ぶ一人一人の病気の治療を、地域ぐるみのチーム医療で支えていく準備が着々と進んでいます。

## 生涯健康カルテ共有化のもと、「どこでもMY病院構想」実現へ。

一番安心できる医療環境。それは、いつでも、どこにいても、一人一人に最も適した医療が受けられるということです。地域医療連携の基盤となる「K-MIX」は現在、香川県をモデルとしています。離島も僻地もあるこの人口100万人圏域を1パッケージとして全国に広げていけば、国が提唱している「どこでもMY病院構想」の実現はすぐそこに見えてきます。

その安心未来へのレールに乗せるのが、EHR(生涯健康カルテ)やPHR(個人医療記録)です。病歴や既往症、使用中の薬、アレルギー症状など、一人一人の生涯健康情報を地域レベルさらには国家レベルで共有し活用できれば、かかりつけ医の的確な予防医療のアドバイスにつながり、旅先での緊急な診療などにも対応できる仕組みになります。これまで院内に留まっていた医療ITを地域へ、全国へ。そのひな形づくりの最前線にあるのが、かがわ遠隔医療ネットワーク「K-MIX」なのです。

★本シリーズは学生の発案と編集により発信しています。



国立大学法人

香川大学

〒760-8521 香川県高松市寺町 1-1

香川大学

検索

<http://www.kagawa-u.ac.jp/>

かがわ遠隔医療ネットワーク

検索

<http://www.m-ix.jp/>

K-MIX  
(かがわ遠隔医療ネットワーク)